



いのちと生活を守る



に き ひろ ぶ み

仁木博文通信

2011年春号
No.20 県西版

住民の悲願実現 排水ポンプ新設 山川・ほたる川

国土交通省は1月6日、ほたる川の排水機場新設について、都道府県等への意見聴取を開始することを発表しました。排水ポンプの新規着工に事実上のゴーサインが出たこととなります。

吉野川市山川町のほたる川周辺の住民は毎年のように浸水被害に悩まされてきました。仁木は山川町を歩いた際に、「排水ポンプを設置してほしい」という住民の切実な声を聞いてきました。

昨年1月には、国や県、吉野川市の担当者と現地を視察し、排水ポンプの新設を訴え続けてきました。住民の要望を形にすることができ、うれしい限りです。



県南のミッシングリンク（未開通区間）解消へ前進。2011年度当初予算案で阿南安芸自動車道・阿南-桑野（桑野道路、6・5キロ）が全国で4カ所しかない新規事業として採択されました。仁木博文は「県南の発展には高速網が不可欠」と訴え続け、新規着工を勝ち取りました。



桑野道路 新規採択

国土交通省の昨年8月の概算要求に盛り込まれた桑野道路ですが、厳しい財政事情の中で、確実に予算化されるのか最後まで予断を許しませんでした。

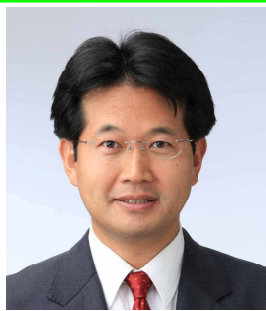
仁木は国交政務三役や仙谷官房長官、岡田幹事長と、あらゆる人脈を頼り、桑野道路の早期着工の必要性を訴え、国交省部門会議でも発言し続けました。

クリスマススイブの昨年12月24日、三井国交副大臣から直接電話をいただき、予算化を知らされました。

仁木は「今年は、桑野道路と日和佐道路をつなぐ福井道路の着工を訴えていきたい」と意気込んでいます。

ご挨拶

2011年、新たな年のスタートです。皆様、いつも大変お世話になっております。昨年は、あの2009年夏の政権交代という歴史的出来事の熱気が薄れてしまった年でした。しかし、政権交代で地方交付税の1兆円以上の増額、5000億円の一括交付金の創設等、地域主権の実現に向け動き始めました。政権交代で毎年2200億円の社会保障制度費削減路線とは決別し、医療や介護が改善に向かっていきます。125万人の年金記録も戻りました。



子ども手当や高校授業料無償化など、社会全体が子どもを育てていく温かい世の中に向かい始めました。8000億円の農業者戸別所得補償制度、今年からは漁業への500億円の戸別所得補償制度、農業の6次産業化等、農山漁村の元気を復活させる取り組みを加速させます。



年末には妻が3回目のお産を迎えたのですが、胎盤機能不全にて緊急帝王切開となり、長男は早産、胎児仮死でNICU（新生児集中治療室）に入院となりました。改めて周産期医療の大切さを痛感し、早急に地域医療の再生を果たさなければならぬと思いました。

今年も徳島を良くすることが日本の再生につながると信じ、与党の一員として、地元の声を引き続き国政に代弁すべく頑張っています。